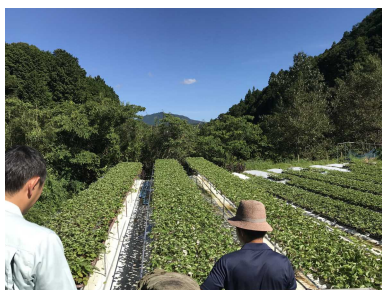


普及活動情勢報告（平成30年9月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

イチゴの育苗現地検討会

・・・J A高知はた宿毛支所イチゴ部会・・・



8月27日、イチゴ生産者7名が参加して、J A高知はた宿毛支所管内7戸の生産者の育苗ほ場で現地検討会を開催しました。

農業改良普及課からは、育苗後期における管理方法のポイントや定植前の病虫害防除の徹底について説明を行いました。また、生産者同士で肥料の効き具合や草勢について活発に話し合う姿も見られ、定植に向けた管理方法の改善に役立った様子でした。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、定植後の管理指導を行っていきます。

黒潮町蛸瀬川地域の商品開発に向けて・・・6次産業化支援チーム会「かきせ」・・・



8月31日、黒潮町集落活動センターかきせ（旧馬荷小学校）にて、今年度より6次産業化普及活動推進事業を活用し、商品開発に取り組む、かきせ「農林水産部会」のチーム会を開催しました。

チーム会では、前回の会議結果を報告した後、参加者からは、持参した加工品の食材や作り方、思いの説明、また、アドバイザーからは販売先や商品の見せ方などについての助言をいただきました。

農業改良普及課では、今後も、アドバイザーと連携をしながら、試作品づくりや地域資源の活用方法を考え、商品開発に向けて支援を行っていきます。

子どもたちとジャガイモ定植！

・・・宿毛4Hクラブ・・・



9月6日、宿毛4Hクラブ員5名は、宿毛市二宮のクラブ員ほ場に宿毛市立二宮保育園児17名を招いてジャガイモの定植を行いました。

クラブ員からは植え穴の掘り方や覆土の仕方など、ジャガイモを植える際の注意点を説明し、園児と一緒にジャガイモを定植しました。11月末には、園児と一緒にジャガイモを収穫する予定です。

農業改良普及課は、今後も子ども達に農業を学ぶ場が作れるよう、地域の若手農業者の活動を支援していきます。

久留米のキュウリを視察ぜよ！

・・・J A高知はた三崎支所園芸部・・・



8月29日、三崎支所園芸部のキュウリ生産者11名が福岡県にある（株）久留米原種育成会へ視察研修に行ってきました。視察研修ではキュウリの販売概況や品種ごとの栽培方法などの説明があり、生産者は熱心に聞いていました。また、種苗会社内のハウスを見学し、新品種や耐病性についての質問が生産者から多く出ました。農業改良普及課は、今後視察などの機会を増やして、生産者の栽培意欲・技術の向上を図っていきます。

ほ場、作業場の点検活動支援によるGAP理解度の向上・・・プロジェクト大宮社中・・・



農薬は新たに保管庫を設置することになりました。

今年から、環境保全型直接支払交付金の要件に国際水準GAPが求められるようになりました。管内でも4つの団体が申請を行うことになっています。

8月30日、四万十市西土佐地区の水稻受託組織「プロジェクト大宮社中」（構成員2人）を対象に、役場西土佐総合支所の職員と協力しながら、ほ場の状況や作業場などの現地点検を行いました。

ほ場周辺に危険箇所はなかったものの、農薬の保管場所や可燃性の燃料の片付け方に課題がありました。今回の指摘を踏まえ、「GAP理解度・実施内容確認書」に記載する「取組事項」を考えることになりました。

農業改良普及課では、国際水準GAPの理解を図るため、ほ場調査や作業場点検を行い、助言をしていきます。

露地オクラも収穫後半に入りました！・・・J A高知はた宿毛支所オクラ部会現地検討会・・・



節間が短く草丈の低いオクラ

9月6日、宿毛市中角地区で、9～10月にかけてのオクラ管理について、現地検討会を開催し、台風通過後の影響も懸念されましたが、20人の生産者が参加しました。

現地ほ場では3節目から着果しており、節間も短く、追肥も少量ずつこまめに施用していて草丈は他のほ場に比べ低く作業性の良さを実感しました。

農業改良普及課からは、台風・長雨対策に併せ、市場事故や農薬事故の対策としてGAP点検シートを活用することを提案しました。

生産者数も多く、点検方法に課題はありますが、農業改良普及課は、高知県GAP実施に向けてできる部分から進めていくよう働きかけます。

「GAP理解度・実施内容確認書」のヒントに！・・・環境にやさしい農業のための研究会・・・



「環境保全型農業直接支払交付金」では国際水準GAPが求められるようになりました

GAP理解度・実施内容確認書

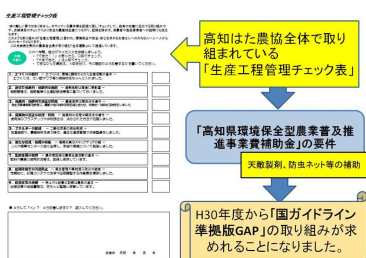
四万十市の「環境にやさしい農業のための研究会」は、有機農業に取り組んでおり、今年も環境保全型農業直接支払交付金を申請することになりました。

9月11日、生産者6人を対象に、四万十市役所でGAP研修会を開催し、農業改良普及課から具体的な取り組み事例について説明しました。

ワークショップ形式で話し合う中で、「農作業は一人でやる人が多いから緊急連絡先を携帯電話に入れておこう！」、「ほ場整備は経営管理の向上に入る？」といった様々な意見が出てきました。

確認書にどのような内容を書いたらいいか、戸惑う声が多かったですが、農業改良普及課は役場担当者と協力し、GAP理解度を深め実践に繋げていきます。

天敵購入の補助にガイドライン準拠GAPが必須に！・・・JA高知はた中村支所イチゴ部会・・・



基礎GAPの生産工程管理チェック表からガイドライン準拠高知県GAPへ

今年から、環境保全型農業推進事業費補助金の要件にガイドライン準拠高知県GAPの取り組みが追加されました。中村支所イチゴ部会では、部会員全員がこの事業を活用しています。

9月10日、JA高知はた本所でイチゴ部会員4名を対象に事業説明会を開催し、GAPに関する動きを説明し、チェック表を配布しました。

出席者からは、今までの生産工程チェック表より手間がかかるという声が上がったものの、「いつから開始したらいいのか」、「毎月のチェック確認はいつ始めたらいいいのか」、といった質問が出されました。

農業改良普及課は、個別巡回や現地検討会を通じて、GAPの取り組みを支援していきます。

イチゴ「おおきみ」の育苗検討会・・・黒潮町～宿毛市巡回（JA高知はた おおきみ部会）・・・



8月31日、イチゴ「おおきみ」生産者8名とJA・幡多農業振興センター5名の計13名が参加し、幡多管内8戸全てのほ場の育苗状況を確認する現地検討会を開催しました。

今年は7月の高温や8月には連続した台風襲来もあり、育苗期の肥培管理には困難な状況が多く見られ、培土の違いによる根腐れの発生もありました。

農業改良普及課では、より過酷な環境でも安定した苗の生産につながる技術・資材の検討を、今後も進めていきます。